

話題の  
最新刊



W a r a s h i n o K o e s a M i e m a s u k a ?  
認知症の人たちの  
小さな大きな一言  
監修 永田久美子

こんなにたくさんの「私の言葉」が集まりました——。

実は、時計が読めないの／ぼくは壊れてく。助けて／俺はもういいよ／  
何でおれのことを勝手に決めるんだ！／今が大切だから忘れないよ／  
私、ちょっと聞いただけなのに、なんてみんな変な顔しはるの？／  
先生、俺なんか悪いことしたんかな／給料出たから飲みに行こうや／  
オレノ、スキナヒト／伏せろ！ 敵が来た！／明日は会議あるのかな／  
そんなへマ、俺はしない／私を家に送って／私、がんばる！ 帰っていいよ／  
こんな状態で生きていたくない／私はもう白衣を着るわけにはいきません／  
母親として何もできなくなってしまうのが悲しい／こんなことさせてごめんよ／  
悪いことをしたつもりはないけど、それが悪いことだったら謝ります etc.

監修 永田久美子 Nagata Kumiko  
認知症介護研究・研修東京センター研究部長

発行・株式会社harunosora  
A5判・並製・160頁・2色刷  
定価・1,700円〔税別〕  
ISBN978-4-9907364-3-9 C3036



本邦初！  
認知症の  
人たちの  
声を集めた  
画期的エッセイ。

認知症の人が  
秘めていた  
不安、哀しみ、  
矜持、愛、  
思いやり……。



読者の方から

「認知症の方からポロツとこぼれ落ちた「び」と言が刺さりました」  
 「僕らはこの人たちが投げたボールをぜんぶ受け止めてるだらうか?」  
 「心はなくてない。いや、感性は増しとるとささえ思えた」  
 「明日からちよつとだけ母に優しくできそうなのがします……」  
 「利用者さんの『声』に耳を澄ますことの大切さを知りました」  
 「認知症の方たちの哀しみに1ミリでも近づきたい、そう思った」  
 「今夜は、父の思い出話をたつぷり聴きたくなりました」

金子哲洋さん(64歳) 男性

頁見本

ぼくは壊れてく。助けて。

2012年夏、夫の希望で岩手の私の実家へ帰省することになりました。パーキンソン症状が進むなか、新幹線での二人旅。これが夫との最後の旅行となりました。

後の旅行と美味しい空気に相んでくつろいでいたある朝、それは起田舎の人情と美味い空気に相んでくつろいでいたある朝、それは起田舎の人情と美味い空気に相んでくつろいでいたある朝、それは起

田舎の人情と美味い空気に相んでくつろいでいたある朝、それは起田舎の人情と美味い空気に相んでくつろいでいたある朝、それは起

夫「どうしたの?」と声をかけると、「ぼくは壊れてく……」おまじきました。リビングのいすに横こぼして、「ぼくは壊れてく……」おまじきました。

夫「どうしたの?」と声をかけると、「ぼくは壊れてく……」おまじきました。

夫「どうしたの?」と声をかけると、「ぼくは壊れてく……」おまじきました。

金子哲洋  
著

ご注文は、株式会社harunosora宛てFAXまたはMailにて承っております。

お申し込み書

FAX044-330-1744

kabu.harunosora@gmail.com

ご注文	認知症の人たちの小さくて大きなひと言 著者・関係者割引価格1,469円[税込]	( )部
お名前		
お届け先住所・施設名	〒	
ご連絡先TEL		
ご連絡先Mail		

送料無料!お振込手数料無料!

Mailにてお申込みの場合、上記必要事項をお書きのうえ、送信願います。  
 お届け先が職場の場合、施設名・所属先などを必ずご記入くださいませ。  
 商品にお振込用紙(郵便局専用)を同封させていただきます。商品お受け取り後、10日以内にご入金願います。  
 ご記入いただいたお客様の個人情報は、本商品の発送をお届けする目的に限って使用いたします。

【お問合せ】 株式会社harunosora ● TEL090-6796-8989 [尾崎] ● FAX044-330-1744 ● kabu.harunosora@gmail.com